

日ラグ協発第 12-575 号

平成 25 年 1 月 24 日

関東ラグビーフットボール協会

会 長 貴島 健治 様

関西ラグビーフットボール協会

会 長 坂田 好弘 様

九州ラグビーフットボール協会

会 長 徳田 昇 様

(財)日本ラグビーフットボール協会

専務理事 矢部 達



「競技規則第 22 条」についてのルーリング 2012-1 (競技規則の確認)

(通達)

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、IRB よりこのほど、下記の通り世界的試験的实施ルールの下記項目に関する通達が出されました。日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようお願い申し上げます。

敬具

記

試験実施ルール 10) 20.1 (g) スクラムの形成

(スクラムエンゲージの手順について)

現在行われている試験実施ルールの一部であるスクラムエンゲージのコール、「クラウチ、タッチ、セット」の導入を受けて、数名のレフリーが明らかに、「タッチ」と「セット」のコールの間に十分な間を置いていないことが見受けられている。フロントロープレーヤー達がしっかり安定し、エンゲージする位置を決めるためには、必ず間を置く必要がある。

IRB のスクラム運営グループおよび競技規則代表者グループは、試験実施ルール 20.1 (g) は、以下のように解釈されるべきことを、再確認した。

レフリーは「クラウチ」そして「タッチ」をコールする。「クラウチ」でフロントローは腰を落とした充分な姿勢をつくり、フロント1・3番は外側の腕で、相手の肩の外側に軽く触れ、その後、腕を引く。そしてフロントロー同士で準備ができたなら、間を置いた後、レフリーは「セット」をコールし、フロントローは組み合っ
てよい。「セット」は命令ではなく、フロント同士で準備ができたなら組み合っ
てよい、というコールである。

レフリーは、「ポーズ」を言葉にしてはならないことに注意すること。現在、映像資料を準備中であり、2013年1月14日(月)より、irblaws.comの競技規則適用ガイドラインで参照可能となる予定である。

以上